

Title	薩道先生景仰録(新村出著, ぐるりあ・そさえて刊)
Sub Title	
Author	吉田, 小五郎(Yoshida, Kogoro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1930
Jtitle	史学 Vol.9, No.1 (1930. 3) ,p.167- 167
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19300300-0168

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

最後に、本書を江湖に推奨すると共に、著者に對して深謝の意を表する。(武田勝藏)

薩道先生景仰録

(新 村 出 著)
◇ろりあ・そさえて刊

木下奎太郎と太田正雄氏は、「日葡交通」第一輯に一耶蘇會年報の翻譯を寄せ、その劈頭を次の言葉で始められた。

今や我々は、仲介者の手を経ることなく、直接原本(乃至それに最も近いもの)から、日本に於ける吉利支丹宗門の歴史を聽く時代に達した。

誠に宜なりと云はま欲しきことではある。兎に角、日本に於ける吉利支丹史研究の盛なる、今日の如きに至つた源をたづねると、薩道先生(Sir Ernest Mason Satow)の功績に俟つもの甚だ多いことは、誰人も異論のないことであらう。名著「耶蘇會刊行書目」The Jesuite Mission Press in Japan 159-1610. 1888. 以下「日本アジア協會報告」Transactions of the Asiatic Society of Japan に寄せられた幾多の論文は、この道をたづめる人々にまつて實にパンであり葡萄酒である。

その薩道先生は昨年夏、八十六歳の高齡を以て、英京ロンドンの遙か西南に方る Devon 州の Ottery St. Mary に逝かれた。本書は、本邦に於ける南蠻・吉利支丹史の權威新村出博士の卿に對する景仰録であり追慕誌である。そして何時の間にか日本に於ける「吉利支丹研究史回顧」になつてゐる。興味深いことには薩道先生を景

仰して、綿々、先生の功をたゝえてみられる新村氏が遂に薩道卿に面晤の機會を得られず、一橋家から慶喜公に扈從して徳川の宗家に行き御小姓頭取をされてゐたさいふ新村氏の養父君が薩道卿を親しく見られたさいふことである。

本書は、四六判僅かに五十七頁の小本ではあるが、本の美しさにかけては神經の行きさどくろりや・そさえての刊行物であるから、小さい乍ら裝幀、印刷に心が用ひられ、洒落れた親しい本である。

最後に薩道先生の日本に於ける自叙傳の一部たる「日本に於ける一外交官」A Diplomat in Japan は、嘗て畏友今宮新氏が翻譯を企てられ、その一部の朗讀を聞いたことがあつたが、氏が是非をもこれを完成せらんことを衷心から希望するものである。

又薩道先生が日本語に長じ、すら／＼草書で手紙を書かれたことや、その凸版刷りは雑誌「反響」(第一卷第四號)や、昨年、何月か石田幹之助氏が東京日々新聞に回顧談を寄せられた時、同時に掲載せられたものを見て、その巧みに驚いたが、それから二三日して日々新聞に載せられたエルネスト・サトー署名の日本語の書翰がサトーの自筆に非ずして代筆なる由を報ぜられた。その訂正の出所は分らなかつたが、諸方にあるらしいサトー卿自筆の日本の書翰は果してごれか自筆であり、ごれが代筆であるか知りたものである。(吉田小五郎)